

## 第24回北海道大学ーソウル大大学校ジョイントシンポジウム



ジョイントシンポジウムバナー

24回目となる北海道大学ーソウル大  
大学校ジョイントシンポジウムを、本学  
の主権によりオンライン開催しまし  
た。初日11月4日（木）の全体会で

は、横田 篤理事・副学長による両校  
の連携紹介および寶金清博総長による  
開会挨拶に引き続き、双方の大学にお  
ける産学連携の現状について紹介が行

われ、産学連携プロジェクトについて  
基調講演が行われました。

○全体会 11月4日（木）10：00～11：40

テーマ：Enhancement of Universities' Capacity through Industry-Academia Collaboration  
（産学連携をととした大学機能の拡張）

10：00～10：10	はじめに、両校連携の紹介（横田篤理事・副学長）
10：10～10：15	開会挨拶（寶金清博総長）
10：15～10：20	祝辞（SNU Se-Jung Oh学長）
10：20～10：30	SNUの産学連携状況紹介（SNU R&DB財団 Yongtaek Hong特任教授）
10：30～10：40	HUの産学連携状況紹介（産地機構 寺内伊久郎教授・副機構長）
10：40～11：00	基調講演①（産地機構 山本強特任教授）
11：00～11：20	基調講演②（SNU 医科大学Junho Chung教授）
11：20～11：30	質疑応答とまとめ（SNU Dukgeun Ahn国際担当部長・教授）
11：30～11：35	閉会挨拶（横田篤理事・副学長）
11：35～11：40	閉会挨拶（SNU Jungsung Yeo学務担当副学長・教授）
11：40	終了

○執行部会談 11月4日（木）9：00～9：20

全体会に先立ち、双方の執行部によ  
る会談を行い、リスト・ベンジャミン  
特任教授のノーベル賞受賞や新型コロ  
ナウイルスへの対応状況、次回のシン




ポジウムに向けた今後の交流などにつ  
いて、和やかな雰囲気の中で情報交換  
しました。



執行部会談

○職員交流 11月5日（金）10：30～17：00

2日目には、テーマ別に双方の職員同士が意見交換を行い、本学より51名、SNUより33名の計84名が参加しました。

時間	本学部署	SNU部署
10：30～12：00	附属図書館	中央図書館
	<p>2019年に部局間協定を締結して以降、初めての実質的な交流となった本セッションでは、SNU図書館が導入するサービスプラットフォーム「Alma」や、電子書籍利用状況と非英語学術図書館の電子化促進に向けた方策、卒業論文へのオープンアクセスや国会図書館システムとの連携、本学附属図書館職員によるブログのアイデア等について意見交換を行いました。</p>  <p>職員交流①図書館</p>	
13：30～15：00	北方生物圏フィールド科学センター	学術林
	<p>15年以上に渡り実施する農学部学生の合同フィールドワークショップを支援する研究林技術職員同士の交流の機会として、技術職員・教員含め40名が参加する大規模なセッションとなりました。研究林の林道管理予算や、木材生産の価格帯決定・樹種の比率、森林の伐採サイクル、地域コミュニティを交えてのアウトリーチイベント等について意見交換を行いました。</p>  <p>職員交流②研究林</p>	
15：30～17：00	高等教育研修センター，技術支援本部，オープンファシリティセンター	教育学習センター，国際部署
	<p>本学技術支援本部，SNU国際部長，双方の高等教育研修センター教員が参加しました。双方のスタッフ・ディベロプメント（SD）やファカルティ・ディベロプメント（FD）の概要説明のほか、コロナ禍におけるオンラインを活用したSD，FDの現況，ハイブリッド・オンライン教育への支援，学生の授業形態選択権の担保等について，幅広く情報交換を行いました。</p>  <p>職員交流③FD, SD</p>	

本シンポジウムは1998年より毎年開催しており、25回目となる来年度は、SNUが主催する予定です。

(国際連携機構)

分科会1

2021 International Workshop on New Frontiers in Convergence Science and Technology

2021年複合科学のニューフロンティアに関する国際ワークショップ／情報科学研究院 教授 平田 拓

2年ぶりの開催となった本分科会は、情報科学研究院ビッグデータとIoTに関する協同センターの協力も得て開催しました。参加者は、最大で49名の同時接続がありました。教員は本学側で8名（近野 敦副研究院長、講演者3名、代表者、他3名）、ソウル大学校（SNU）側で5名（Sung-Joon Ye研究科長、講演者3名、代表者）でした。

分科会では、開会に際してSNU Graduate School of Convergence Science and TechnologyのYe研究科長と、情報科学研究院の近野副研究院長から挨拶がありました。その後、本学とSNUの教員による講演（北大3件、SNU3件）と、大学院生によるショートプレゼンテーション（北大4件、

SNU5件）が行われました。教員、大学院生とも、バイオ、ナノテクノロジー、情報通信の分野の発表が行われました。本学の大学院生は初めて英語で発表する学生も多く、それなりの準備をして発表に臨んだようでしたが、英語での質問に窮する学生も見受けられ、自分の実力を知る良い機会になったものと思います。コロナ禍で国内・国際学会ともに発表の機会が減っている中で、大学院生が発表する機会が持てたことは良かったと考えています。英語で発表する経験を積む良い機会となりました。

これまでの分科会では、大学院生はポスター発表を行っていましたが、オンライン開催ということでショートプレゼンテーション（発表7分、質疑3

分）の形にしました。SNUの教員参加者とも意見交換しましたが、この形態は比較的好意的に受け止められていました。一方で、質問の時間が限られているため、分野外の人から質問が難しいという点も指摘されていました。いずれにしても、大学院生にとって良い機会であったということでは意見が一致しました。

オンライン開催では、発表以外での双方の交流が限られており、休憩時間などで雑多な話ができるような機会は持てませんでした。来年、リアルなジョイントシンポジウム分科会が開催されることを期待しています。

（情報科学研究院）

分科会2

SNU-HU-MU Joint Class: Environmental Chemicals and Human Health

SNU-HU-MU共同講義：環境化学物質と人々の健康／環境健康科学研究教育センター 特任教授 宮下ちひろ

11月19日（金）、26日（金）に開催された本分科会は6回目の開催であり、ソウル大学校（SNU）、タイのマヒドン大学（MU）との協同講義としては5回目となります。3大学から教員10名及び大学院生30名が参加しました。

環境化学物質の曝露評価や生体モニタリング等の基礎知識に加えて、COVID-19、大気汚染と健康問題、室内環境、E-waste（電子廃棄物）、胎児期の化学物質曝露と子どもの健康、化学物質管理に関する、幅広い講義が提供されました。

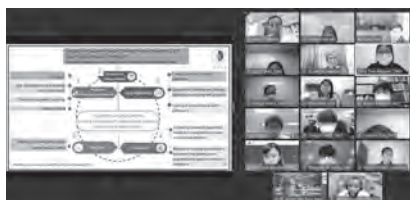
加えて、各大学に所属する大学院生

の混合構成による4組が事前学習として情報収集や討論を行い、その成果を発表しました。環境保健、環境疫学を専門とする大学院生のみならず、本学からは国際感染症学院、保健科学院、医学院、環境科学院、獣医学院、理学院に所属する大学院生、またOne Health Allyコースとしても提供されたため、帯広畜産大学並びに酪農学園大学所属の大学院生も参加し、留学生も多く参加したことから、国際色豊かで多様な視点を持つ質問や意見が出されました。本講義を通じて本学とSNU、MUの大学院生との交流によりネット

ワークを形成することは、将来の受講生のキャリア形成においても有益でした。

今回はオンラインでの開講となりましたが、来年度はMUにてラーニングサテライト事業として開講予定です。受講生からの評価も高く、来年度も参加したいという希望がありました。今後も継続して講義を提供していく計画です。

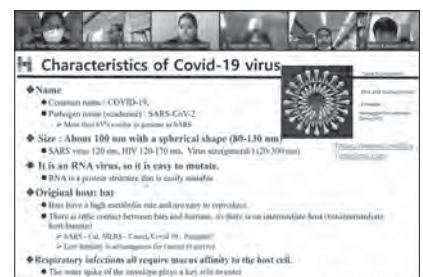
（環境健康科学研究教育センター）



グループプレゼンテーションの様子



来年度へ向けて



授業の様子



分科会3

The 10<sup>th</sup> HU-SNU Joint Symposium on Materials Science and Engineering

第10回材料科学工学に関する合同シンポジウム／工学研究院 教授 橋本直幸

本合同シンポジウムは、工学研究院材料科学部門をホストとして12月3日（金）にオンライン開催しました。ソウル大学側は、昨年同様Myoung-Gyu LEE教授に取り纏め頂きました。今年度は本学・ソウル大学校双方から計14名の教授・准教授に大学院生及び学部生46名を加えて、計60名の参加者数となり、北大8名、ソウル大4名の研究者からご講演頂きました。

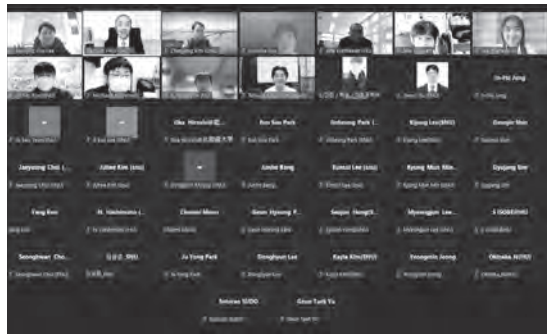
講演・発表内容は多岐にわたり、構造材料、エネルギー材料、ナノ材料、新規特性材料、製造プロセスに関する最新の研究が紹介されました。両大学とも、コロナ禍で研究環境が十分ではない状況にありながらも、着実に研究

成果を出している印象を受けました。また、前回に引き続きオンライン開催であるためか、参加者数は多いが、討論がスムーズに進まない傾向にあったことが残念です。

次年度も、引き続き北海道サマーイ

ンステイテュートの開講を積極的に進め、状況が好転すれば、可能な限り学生のインターンシッププログラムも進めたいと思います。

(工学研究院)



参加者集合写真

分科会4

Joint Symposium in the Fields of Mechanical and Aerospace Engineering

機械航空宇宙工学分野における合同シンポジウム／工学研究院 教授 大橋俊朗

本学機械知能工学科とソウル大学校航空宇宙工学科の間で、同分科会を12月17日（金）にオンラインにて開催しました。同分科会は、2016年度の第12回開催を最後に4年間開催されていませんでしたが、ソウル大学校代表者のChongam Kim教授の協力のもと5年振りに開催することができました。

当日は、88名の参加者を得て「Fluid Dynamics, Fuel Cells」, 「Measurement and Control, Robotics」, 「Aircraft Design, Fracture Mechanics」, 「Biomechanics」の4つのセッション

の下、両大学より教員8名ずつ計16名による口頭発表を行いました。

また、Zoomのブレイクアウトルーム機能を用いて、両大学より大学院生8名ずつ計16名によるポスター形式の研究発表を併せて行いました。機械系4分野にわたる最先端の研究発表ならびに活発に行われた質疑応答は大変有意義であり、5年振りとはなりませんが研究交流が再開できたことは大きな成果でした。

午前中の最後には教員セッション「Open Discussion Towards Future

Joint Symposium (将来の合同シンポジウムについてのオープンディスカッション)」として1時間程度にわたり、今後の分科会開催について意見交換を行い、来年度から継続して開催することを改めて確認することができました。コロナ禍の先行きは不透明ですが、来年度はハイブリッド形式（対面及びオンライン）で開催を予定しています。

(工学研究院)



分科会の様子

## 分科会5

## The 15th HU-SNU Joint Symposium on Mathematics: Operator Algebra

第15回HU-SNU数学におけるジョイントシンポジウム：作用素環論分科会／理学研究院 准教授 鈴木悠平

昨年度は分野を限定せずに数学全体の分科会として行っていた企画を、今年度は作用素環論に絞って開催することになりました。既にオンラインによるセミナー発表などの経験は多くの人が豊富にあったと思われるので、オンライン化による不都合や不具合はほとんどありませんでした。本学、SNU側ともに、学生、博士研究員、教員の講演発表をバランスよく設定できたことは良い点であったと思います。

特に、国際的な場で講演経験を積む機会は、国外研究者から正当な評価を得るのに時間がかかることが多い数学の場合、若い内に得ることはなかなか難しいので、博士研究員や学生にとっては特に良い経験であったと思われます。

反省点としては、関連分野の博士研究員が2名参加できたという点は幸いでしたが、それでも本学側の参加者があまり多くならなかった点です。分野を限定することで、実のある議論を行うことができる一方で、他分野からの参加が難しくなるという問題点があり

ます。来年度以降同様の企画を行う際には、教員、博士研究員、学生の多い分野を選ぶ、関連分野も巻き込むなどの工夫をして、反省点を生かしていくべきであろうと思います。

(理学研究院)



分科会の様子

## 分科会6

## Collaborative Forest Science Education and Research in the Post-pandemic

ポストパンデミックにおける森林科学教育・研究の連携／農学研究院 教授 玉井 裕

本分科会は、ソウル大学校農学生命科学部森林資源学科と、本学農学研究院森林科学分野及び北方生物圏フィールド科学センター森林圏ステーションと共同で、12月13日（月）にオンラインで開催しました。教員のほか、研究者や学生を含め、総勢49名の出席者がありました。

分科会では、双方の学科と研究林の紹介に加え、8名の研究者が、森林環境から木材化学に至るまで多岐に渡る最新の研究成果を発表しました。各々の発表には共通の話題も多くあり、パンデミック後には、往來を活性化させることにより共同研究を推進していきたいとする希望が多く出されました。

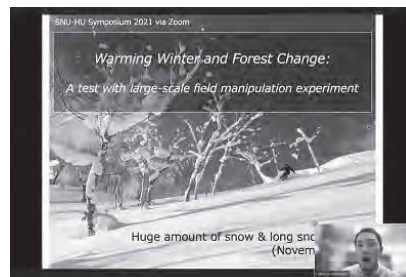
また本学森林科学科が、ソウル大学校森林資源学科と20年以上に渡り、双方の大学研究林にて共同で実施している学生実習についても、パンデミック後に再開させることで意見が一致しま

した。

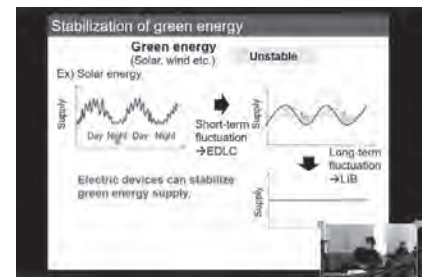
分科会の開催を通じて、オンラインであっても交流を継続していく意義を実感しました。来年度は大学院生の発

表も取り込み、より活発な分科会とすることを目指しています。

(農学研究院)



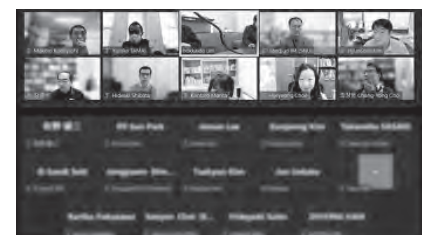
研究発表の様子①



研究発表の様子②



分科会北大会場風景



分科会参加の様子

分科会7

# How would COVID-19 change the education at dental school?

COVID-19による歯学教育と臨床の変化／歯学研究院長 教授 八若保孝

1月24日(月)に、歯学研究院としては第4回目となる分科会を開催しました。

本分科会は、ソウル大学校歯学部のパク・シンヨン教授とヨ・ウンジェ教授、本学歯学研究院の井上 哲教授(佐藤嘉晃教授と連名)と佐藤 淳准教授の計4名による発表が行われ、新型コロナウイルス感染症による種々の制限下における歯学教育の現場の対応

や臨床教育の実状等について、活発な情報交換・意見交換がなされました。

また、これらの発表に先立ち、本学歯学部3年の市川茉莉萌さん、神藤万裕さん、山本みちかさん、吉本詩音さんが本学の紹介等を韓国語により発表することで、両校の相互理解・親睦をより深めることができました。

今回は、昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響でオンライン

による開催となり、直接往来をしておの交流は叶いませんでしたが、両校の教員、大学院生を中心に80名を超える参加があり、非常に有意義なシンポジウムとなりました。

今後、本分科会をはじめとした両学部等の交流を継続し、教育・研究の連携をより一層進めていく計画です。

(歯学研究院)



分科会風景



発表者と参加者の意見交換

分科会8

# Watching K-drama in Japan: Texts and Contexts

日本からKドラマをみる：テキストとコンテキスト／メディア・コミュニケーション研究院 准教授 金 成玫

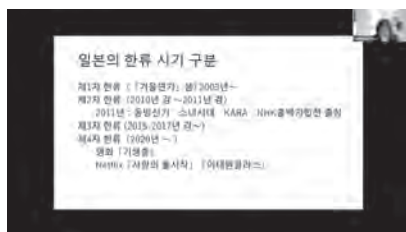
本分科会は、「Watching K-drama in Japan: Texts and Contexts」をテーマに、12月3日(金)にソウル大学校-北海道大学共同セミナーを開催しました。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、Zoom会議の形式で開催された本セミナーは、ソウル大学校日本研究所所長の金 顕哲教授の挨拶から始まり、京都産業大学の山中千恵教授、日本女子大学の平田由紀江准教授、摂南大学の森 類臣准教授による研究発表、本学の金 成玫准教授とソウル大学校の金 孝眞助教授による討論の順番で行われました。日本と韓国から80名以上の方が参加し、質疑応答時間を通じて意義のある議論を行いました。

昨年度に続いて2回目となる本セミナーを通じて得られた大きな成果とし

ては、日韓のメディア・大衆文化研究における共同研究のさらなる可能性を本学とソウル大学校が提供できるということを確認したことや実際そのような成果が明確に見えてきたことであります。開催後に両校の担当者は、来年度以降も広いネットワークを築きながら日韓の研究成果を発信していくことに合意しました。

(メディア・コミュニケーション研究院)



口頭発表の様子



イベントポスター